

ばんけい

教育 ほんとうにゆーず
かわら版こ みち
教育の小径No.52
2月号
2013 February

今月のことば

少年学ばざれば
老後に知らず

若いときにしっかり学んでおかないと、知識がないので年をとってから苦労するという意味です。「少年老いや早く学成り難し」と類似しており、いずれも若いときに寸暇を惜しんで勉強することを奨励しています。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

もうひとつの防災教育

- 私たちは、地震や津波、火山の噴火、洪水、土砂災害、豪雪など様々な自然災害が多発する「自然災害列島」に住んでいます。
- 各学校では、防災マニュアルの作成、避難訓練の実施のほか、教科等において防災に関する確かな知識を身につけ、防災意識を高めることが求められます。

今月の記念日

富士山の日(2月23日)

静岡県と山梨県がそれぞれ「富士山の日条例」を制定して設けました。富士山について理解と関心を深め、豊かな自然と美しい景観などを後世に引き継ぐことを目指しています。2月23日は「ふ・じさん」の語呂合わせです。

「自然災害列島」としての国土

わが国は世界でも有数の災害の多い国です。とりわけ地震が多発し、世界で発生したマグニチュード6以上の大規模な地震の約2割が日本とその近海で起こっています。これまでもたびたび大きな地震やそれに伴って津波が発生しています。最近では東日本で大震災が発生し、甚大な被害を受けました。東海地方や南海沖、関東地方などでは、巨大地震が発生する可能性が高まっています。

わが国は火山国でもあります。わが国には、世界の約1割に当たる110の活火山が現在、分布しています。火山の噴火によって、地震が発生したり、火山灰が降ったりします。火砕流が発生することもあります。日常生活や農業生産などが被害を受けます。最近では、東京都の伊豆大島三原山や三宅島雄山、北海道の有珠山、長崎県の雲仙普賢岳などの噴火は記憶に新しいところです。現在も鹿児島県の桜島などは活動を続けています。

台風や梅雨前線などによって大雨が続くと、河川が氾濫し洪水を引き起こします。山間地では土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害が発生します。豪雪地帯では、降り積もった雪の重さで家屋が倒壊することもあります。最近では、突風や竜巻の発生によって想像を超えた

被害を受けています。

わが国の自然災害は枚挙に暇がありません。私たちは「自然災害列島」に生活していると言えます。自然災害はいつでも、どこでも起こります。こうした災害によって、貴重な財産やかけがえのない人命が一瞬に奪われることもあります。

子どもたちは将来どこで生活するようになるか、わかりません。どこに住むようになって、自分の生命を自分で守るために必要な最低限の知識と、万が一のときに身を守る行動力を身につけておく必要があります。

教科・道徳でも防災教育を

東日本大震災のあと、国民の間に防災に対する意識が一気に高まり、学校教育においても、特に自然災害に備えて防災教育が重要な教育課題としてクローズアップされてきました。

具体的には、災害発生時の対応マニュアルの作成、様々な場面をとらえた防災訓練、家庭・関係機関等の連携体制、防災用具等の見直し、教職員の研修の充実などが積極的に実施されています。これらは主として万が一のときの対応・体制にかかわる事柄です。

こうした仕組みや体制づくりと同時に必要となる取り組みが、子どもたちへの直接的な教育・啓発です。子どもたち

に確かな知識にもとづく防災意識を高めること、災害発生時において適切に行動する力を育てることが必要になります。日々の教育活動の中で、危険予測（予知）能力、危険回避能力を発揮するための基盤となる知識を習得させ、それらを活用する能力を育成することが重要です。

そのためには、自分の住んでいる地域や国土で起こりうる様々な自然災害の状況や、それらの特色やメカニズムなど、自然環境からみた国土の特質について基礎的な知識を身につけている必要があります。確かな知識が裏づけとなって、望ましい行動や態度が発揮されるからです。

社会科や理科、体育科（保健領域）などは指導内容面で防災教育と深くかかわっています。社会科では中学年で風水害や地震を取り上げることができます。5年では自然災害の防止について学習します。理科では、流れる水の働きや土地の変化の関係（5年）、火山の噴火や地震による土地の変化（6年）について学習します。一方、国語科や算数科、図画工作科、道徳などは、防災や自然災害を教材や題材として取り上げ指導することができます。

このように見てくると、教科・道徳等における防災に関する指導は「もうひとつの防災教育」です。日々の教育活動の中で、普段の防災教育が求められます。

いつも人に頼る子ども

Q. 何をするときにも、必ず教師に確かめに来る子どもがいます。友だちがやるのを見てから、自分のことに取り組む子どもがいます。そのために、作業が他の子どもたちより一歩も二歩も遅れてしまいます。こうした人に頼りがちな子どもにはどのように指導したらよいのでしょうか。

A. 今、子どもの自立の遅れが問題になっています。ここでいう自立とは、自分のことは自分で進んで行うという日常生活の自立、自ら学ぼうとする学習の自立、そして精神的な自立を指しています。自立が遅れている背景には、過干渉、過保護など保護者のこれまでの養育態度が影響していると言われています。

人に頼りがちな子どもへの指導のポイントは、あせらずに時間をかけてじっくり取り組むことです。指導のめあてをあまり高く置かず、スモールステップで設定します。性急に結果を求めようとすると、その子どもにストレスが増大し、かえってマイナスの結果を生み出します。

人に頼ることは、人から学ぶ姿勢であり、よいこととして認める度量も必要です。今の状況を認めつつ、「まず自分のやりたいことをノートに書かせる」「まず自分で挑戦する時間を与える」など、時間をとって自己を確立するように導きます。もし失敗してもポジティブに対応します。

保護者と連絡を取り、学級での指導の方針や方法について説明することが大切です。もし家庭などで悪い影響が見られるときには、これまでの指導方法を転換することも求められます。

教育の動向

ユネスコスクール

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章の前文に示されたユネスコの理想(戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。)を実現するため、昭和28年(1953年)に創設されました。かつては、ユネスコ協同学校と言われた時期もあります。

ユネスコスクールでは、①地球規模の問題に対する国連のシステムを理解する。②人権、民主主義の理解と促進を図る。③異文化理解を深める。④環境教育を推進することとされています。現在、世界180の国や地域に

9000校以上のユネスコスクールがあります。日本国内には519校(平成24年10月現在)あります。ここ数年で急増し、今も増えつづけています。

わが国では、持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目標にしている持続発展教育(ESD)を普及・促進するために活用されています。

平成24年8月に日本ユネスコ国内委員会から「ユネスコスクールガイドライン」が公表されました。ここには、ユネスコスクールとして、また持続発展教育(ESD)の推進拠点として、実践する際に大切にしたいことが示されています。日本ユネスコ国内委員会事務局に問い合わせると、ユネスコスクールや持続発展教育に関する情報などを得ることができます。



北先生の授業力向上術

問題解決的な学習④
学習問題に対して予想する

学習問題がつくられるとすぐに調べたり実験や観察したりさせようとしますが、その前に行うことがあります。それは「学習問題に対して予想する」という行為です。「予想する」ことを「仮説を立てる」とも言います。子どもたちに予想させることには、次のような意味や役割があります。

まず、予想することは「仮の答え」を考える行為ですから、思考力が養われます。「たぶん○○○ではないだろうか」「きっと○○○だと思おう」などと一人一人が思考します。その際、予想にはその根拠を求められますから、これまでの学習や経験などで習得した知識や技能が活かされます。

次に、学級で予想したことについて話し合うことによって、学び合いが成立します。ここでは、自分とは違った予想を認めたり学んだりすることによって、よりよい予想に高めることができます。友だちのよさに気づかせることもできます。さらに、こうした活動を通して、予想したことを早く確かめたいという、問題解決への意欲をもつようになります。何について確かめるのか、検証する目的が明確になってくるからです。

予想させるときには、その手がかりとして資料を示す方法もあります。「ヒントカード」などと言われています。予想するという行為は、問題解決的な学習を充実させるうえで重要な通過地点であると言えます。

INFORMATION

生きる喜びをはぐくむ

ぶんげいの

1~6年生の道徳

新学習指導要領
完全対応

教師用指導書
充実の付録
CD-ROM



編集後記

私の暮らす地域には、伊勢湾台風(1959年)で氾濫した河川が流れています。私が小学生の頃、東海地震と水害対策について、アニメなど映像や画像を通じて災害の危険性を学びました。今後も災害のおそろしさを語り伝えていく必要があります。(T記)

企画・編集: ぶんげい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2013年2月1日